

忍 者 文 芸 研 究 読 本

「忍者像」は
どのように
創られたのか。

小説・芸能・漫画・映画：
フィクションの世界における
忍者像を、国内外の視点から
解き明かす！

（三重大学准教授） （三重大学教授）
吉丸雄哉・山田雄司・尾西康充 編集



巻頭鼎談

和田竜

『村上海賊の娘』で2014年本屋大賞受賞！
『忍びの国』『のぼうの城』など

川上仁一

「現代に生きる「最後の忍者」」

山田雄司

〔三重大学教授・忍者研究〕

定価：本体1800円（税別）

ISBN978-4-305-70732-1 C0021

A5判・並製・カバー装

256頁・口絵4頁

笠間書院



〔口絵〕伊賀流忍者博物館所蔵・沖森文庫 忍者浮世絵セレクション
はじめに ● 吉丸雄哉

1 鼎談 史実の魅力、小説の魅力 ― 忍者小説の新たな地平

参加者 和田竜（作家）×川上仁一（伊賀怪竜二十一代宗師家・伊賀流忍者博物館名誉館長・三重大学特任教授）×山田雄司（三重大学教授）

各論を読む前に知っておきたい

忍者関連作品史 ● 吉丸雄哉

▼下記に公開しています！

2 日本のなかの忍者

「しのび」の実像 ● 山田雄司

忍者とはなにか ― ある忍者説話の形式を通じて ● 吉丸雄哉

〔コラム〕芭蕉忍者説の検討 ● 牧 藍子

『児雷也豪傑譚』から『NARUTO』へ ● 佐藤至子

歌舞伎のなかの忍術 ● 光延真哉

〔コラム〕三遊亭円朝と忍術 ● 延広真治

村山知義『忍びの者序の巻』 ● 尾西康充

山田風太郎が描いた忍者 ● 谷口 基

〔コラム〕児童文学と忍者 ● 石井直人

忍者漫画の「革命」 ― 白土三平から相原コージ『ムジナ』へ ● 小澤 純

3 海外からみた忍者

Narutoになった日本の忍者 ● 井上稔浩

〔コラム〕中華圏映画に暗躍する忍者 ● 秦 剛

外国人の目から見た忍者 ● クバーソフ・フョードル

〔コラム〕中国における日本の忍法文学 ● 関 立丹

4 忍者を知るためのガイド

忍者研究主要文献ガイド1 江戸時代・昭和三十年代まで ● 吉丸雄哉

忍者研究主要文献ガイド2 昭和三十年代以降 ● 池田 裕

忍者関連主要作品年表 江戸時代 ● 吉丸雄哉

忍者関連主要作品年表 明治時代以降 ● 吉丸雄哉・池田 裕

全国忍者関連施設ガイド

5 忍者の心得を読む 「史料紹介」

「当流尋口忍之巻註」を読む「解説と翻刻」 ● 山田雄司

執筆者プロフィール／編集後記／奥付

各論を読む前に知っておきたい

忍者関連作品史 ● 吉丸雄哉

各論を読むにあたって全体的な道筋を示したい。以下、現在までに生み出された忍者に関連する作品を「小説」「映画」「テレビ」「漫画」「アニメ」にわけて解説する。

I 小説

近世小説において、実際に戦場で活躍した忍びを描いたのが軍記や実録である。なかには事実を記したつもりのももあったかもしれないが、内容は史書というより歴史物語である。『太閤記』や『難波戦記』など、「忍者関連主要作品年表」●江戸時代「200ページ」の「軍記」や「実録」の多くがそれにあたる。

江戸時代での、戦場から離れてひとりの忍者を描く場合の主流な話型の一つは「忍者が忍術を用いて貴重なものを盗んで戻ってくる」である。これは本書の吉丸雄哉「忍者とは何か―ある忍者説話の形式を通じて―」48ページで詳しく述べた。「窃盗」で「しのび」と読んだように、御家の重宝など大事なものを盗む悪人という描かれ方であった。本書の山田雄司「しのびの実像」35ページが紹介するような忍びの姿が小説や芸能にも影響している。

もうひとつ主流だったのが、御家乗とりや天下転覆を謀る大悪人の姿である。忍術・妖術を駆使するその姿は主に芝居で熟成されていった。本書の巻頭口絵「伊賀流忍者博物館所蔵・沖森文庫 忍者浮世絵セレクション」や、光延真哉「歌舞伎のなかの忍術」71ページを参考にしたい。

開化の世になり、江戸時代と同じような忍術使いを登場させにくくなったのは確かである。本書の延広真治「三遊亭円朝と忍術」83ページはそのような事情を伝える。しかし忍者はフィクションの世界から消えることなく、新たな魅力を備えて主役となっていく。

実録の難波戦記物は明治期に入って、より自由になり、講談の分野で発展する。そのうち、もともと難波戦記物では端役であった猿飛佐助や霧隠才蔵を主人公に据えたのが、立川文庫である。立川文庫の成立事情やその特徴は足立巻一「立川文庫の英雄たち」(文和書房、昭和55)に詳しい。立川文庫の最大の特徴は、江戸時代では後ろ暗い存在であった忍術使いを、正義の味方として活躍させたことである。忍者文芸における大転換であった。本書の牧藍子「芭蕉忍者説の検討」55ページでは、芭蕉忍者説を芭蕉賛美の伝統の中に位置づける。江戸時代には芭蕉忍者説はないので、文芸を通じて忍者が好意的な目で見られるようになったことが大きいといえる。

こういった状況のなかで、白井喬二・国枝史郎らが登場し、大人向け時代小説にも忍者が描かれるようになった。立川文庫自体は講釈師の玉田玉秀斎が大正八年に亡くなつてから衰えるが、忍術を駆使した活劇を描く講談・立川文庫系の小説は昭和二十年代末頃まで続いた。吉川英治『鳴門秘帖』、野村胡堂『隠密縁起』のように隠密として描かれる例もあり、忍術色は薄くともこれも忍者小説といえようか。戦中期は全般的に出版点数が減少するが、忍者小説も時局柄ほとんど見られなくなる。

戦後になって、織田作之助、林芙美子、檀一雄、坂口安吾といった著名な作家が忍者小説を書いているのが目を引く。近くでは、三田誠広、花村萬月、森村誠一、万城目学など、時代小説家でない人たちが忍者小説を書いている。忍者小説は一度は書いてみたくなるもののなか。

さて、戦後の忍者小説は五味康祐『柳生武芸帳』（昭和31）の登場が画期的であつた。集団としての忍者やその非情さを描いた点やリアルな描写に特徴がある。続いて登場した司馬遼太郎『梟の城』（昭和34）や柴田錬三郎『赤い影法師』（昭和35）、村上知義『忍びの者』（昭和37）により、忍者小説ブームが起つた。昭和二十年代後半から流行していた剣豪小説からの発展である。これらは新聞や週刊誌に掲載されたように、サラリーマンが主な読者である。上下関係の厳しい組織の一員としての忍者の姿が、サラリーマンの共感をよんだと思われる。村上知義『忍びの者』に関しては、本書の尾西康充『村上知義『忍びの者』序の巻』¹¹⁷ページを参考にして欲しい。五味・司馬・村上らの忍者小説が現実路線であつたのに比べて、山田風太郎は違う分野の忍者小説を継承した。『甲賀忍法帖』（昭和33）など、山田風太郎の忍者小説は忍法小説といわれる。人間能力の拡張の範囲内におさまる忍術ではなく、超能力的な忍法が使われることがその特徴である。立川文庫など、非現実的な忍術の系譜につらなるものといえる。忍者小説は、現実路線と忍法路線があつて、そのどちらかに位置する。忍者小説としては、五味康祐・司馬遼太郎・柴田錬三郎・村上知義・山田風太郎・池波正太郎が大家であつて、時代小説ではおおよそその類型におさまっている印象がある。山田風太郎に関しては本書の谷口基『山田風太郎が描いた忍者』¹⁰⁰ページや、同『戦後変格派・山田風太郎』などの著述を参考のこと。

忍者小説は時代小説の一角を占め、コンスタントに書かれ続けている。二〇〇〇年代に入ってから、綿密な調査をおこない緻密な構成を練り上げる和田竜と、山田風太郎の系譜につらなる伝奇小説の書き手である荒山徹が目立つ。和田竜の創作技法やその作品の魅力を、和田竜・川上仁一・山田雄司による本書所収の『鼎談 史実の魅力・小説の魅力―忍者小説の新たな地平』¹⁰⁶ページがよく伝える。

日本のみならず中国でも日本の忍者小説は受容されている。本書の関丹丹『中国における日本の忍法文学』¹⁷¹ページに詳しい。

時代小説ではない忍者小説は、児童文学・ジュブナイル（十代向け小説）である。本書の石井直人『児童文学と忍者』¹⁷²ページを参照してほしい。現代的な社会のなかに、忍者というキャラクターが入っていくパターンがすでに確立されているといつていいだろう。とくにジュブナイルでは、漫画化やアニメ化と連動しており、時代小説に比べて広範な影響を持っていると考えられる。

Ⅱ 映画・テレビ

映画技術により、消える現れるといった忍術が描きやすく、立川文庫の影響の強い忍者映画が大正期に大量に作られた。「目玉の松っちゃん」こと尾上松之助主演の作品群が有名である。忍者映画は基本的に時代小説の映画化・テレビドラマ化といったパターンが多く、忍者映画のブームも忍者小説のブームと同調している。二〇〇〇年代に入ってから、忍者映画は目立ったヒットがない。これは時代小説のなかで忍者小説のヒットが少ないことも理由だろう。映画もテレビも二三十年の時代劇は、昭和後期に比べ

て低調であり、個々の作品の出来不出来のみならず、そういった社会情勢があるのは否めない。

忍者映画に関しては、日本製以外のものも多く、世界における忍者像はそれらの影響を受けて形成されている。本書の井上稔浩『Ninjaになった日本の忍者』¹³¹ページや、秦剛『中華圏映画に暗躍する忍者』¹⁴⁵ページを参照にして欲しい。また、関連して、本書のクバーソフ・フォードル『外国人の目から見た忍者』¹⁵⁰ページも忍者ファンなら知っておきたい内容である。

映画もテレビも脚色が多く、史実の忍びからは離れた描き方をされているのだが、それが忍者の魅力を生み出していることも間違いない。

Ⅲ 漫画・アニメ

江戸時代には『児雷也豪傑譚』のような草双紙があるが、どちらかといえば漫画より絵本といえよう。忍者漫画に関しては、戦前期に関してよくわかっていないことが多い。『忍者関連主要作品年表●明治時代以降』²⁰⁵ページには昭和二十二〜二十四年の漫画を多く記したが、これはメリーランド大学ブランデ文庫に多く残っているためである。これらの多くは資本漫画であり、公的機関が保存していないからである。戦前は山田みのる・榎本松之助・宮尾しげをらが書いているが、今のようなコマ割りをしたマンガではなく、絵本である。戦後の忍者漫画といえば、杉浦茂をまず欠かすことはできない。昭和二十八年以降、『猿飛佐助』や『少年児雷也』など多数の忍者漫画を描いた。丸みのある独特の絵柄や立川文庫の忍術小説につらなる融通無碍な忍術で多くの少年読者を楽しませた。漫画の主流は劇画に移り、昭和三十四年の『忍者旋風』以降、『忍者武芸帳』や『カムイ伝』を描いた白土三平が代表的な作者となる。『カムイ伝』は階級闘争の物語として、全共闘の学生に強く支持された作品であつた。ちなみに『カムイ伝』は未だ完結していない。また、横山光輝の『伊賀の影丸』（昭和36〜41）と『仮面の忍者 赤影』（昭和41・42）は、黒装束に鎖帷子という忍者像の普及させた。このころ白土三平『風のフジ丸』、横山光輝『仮面の忍者 赤影』、吉田竜夫『少年忍者部隊月光』など、テレビドラマ・実写映画・アニメなどになり、いわゆるメディアミックスされる例が現れた。子ども向けの忍者漫画である藤子不二雄A『忍者ハットリくん』（昭和39〜43）や尼子騒兵衛の漫画『落第忍者乱太郎』（朝日小学生新聞、昭和61〜）と、そのアニメ化作品『忍たま乱太郎』（平成5〜）も強い影響力を持っている。白土や横山の忍者漫画が暗く厳しく冷酷な印象があるのに対し、藤子や尼子の忍者漫画は明るくユーモアに溢れている点に特徴がある。

白土三平・横山光輝以降の忍者漫画については、とくに相原コージ『ムジナ』を中心に、本書の小澤純『忍者漫画の革命 ―白土三平から相原コージ『ムジナ』へ』¹⁷⁰ページを見て欲しい。

忍者漫画として、過去最大の発行部数となったのが『NARUTO』（平成11〜）である。翻訳され、全世界で読まれている。黒装束ではなく、忍術も忍法系のものだが、まぎれもない忍者漫画である。『NARUTO』が過去の忍者作品をどのように包摂し、新たな作品となっているかは、本書の佐藤至子『児雷也豪傑譚』か『NARUTO』¹⁷⁵ページを見て欲しい。忍者像は過去の蓄積からなり、また日々更新されているのである。

伊賀忍者研究会【編】
山田雄司（三重大学）【監修】

忍者の教科書

新 萬 川 集 海
しん まん せん しゅう かい

伊賀・甲賀に伝わる
忍術書『萬川集海』を
紐解きながら、
忍者の歴史、術や道具を、
写真とともにやさしく
解説します。



定価：本体 600 円（税別）

ISBN978-4-305-70724-6 C0021

A5判・並製・48頁フルカラー

編者・監修者紹介

◆伊賀忍者研究会 平成11年11月11日に発足し、伊賀を拠点に活動する忍者愛好グループ。文献読解やフィールドワークによる学術研究はもちろん、講演やイベント、パンフレットの作成などで情報発信を行う。伊賀忍者と忍者のふるさと「伊賀」を日本・世界へ発信し、地域経済と文化教育面での活性化に取り組む。代表者：池田裕。

◆山田雄司 三重大学人文学部教授（日本古代・中世信仰史）。主要著書に、『崇徳院怨霊の研究』（思文閣出版、2001年）、『跋扈する怨霊―崇りと鎮魂の日本史―』（吉川弘文館、2007年）、『日本思想史講座1 古代』（ベリかん社、2012年、共著）。

目次

はじめに

1. 忍者の仕事

2. 忍者の歴史

- ① 伊賀忍者の歴史
- ② 甲賀忍者の歴史
- ③ 鈎の陣
- ④ 戦国時代
- コラム① 信長襲撃
- ⑤ 伊賀惣国一揆
- ⑥ 天正伊賀の乱
- ⑦ 神君伊賀越え
- ⑧ 関ヶ原の戦い前後
- コラム② 甲賀流忍術屋敷
- ⑨ 江戸時代
- ⑩ 忍者の歴史年表
- コラム③ 松尾芭蕉忍者説

3. 忍術と忍具

- ① 忍術とは
- コラム④ 妖者の術を使った桶岡道順
- ② 忍術書
- ③ 陽忍と陰忍
- ④ 忍び六具
- ⑤ 七方出
- ⑥ 忍食
- ⑦ 忍薬
- ⑧ 甲賀の薬と山伏
- コラム⑤ 観阿弥忍者説

4. 忍者エッセイ【特別寄稿】

修験と忍者

- 山田雄司（三重大学教授）
『NARUTO』と『ONE PIECE』
- 吉丸雄哉（三重大学准教授）

おわりに

■ご注文・お問い合わせ

●全国の書店でお買い求めいただけます。●お近くに書店がない場合、小社に直接ご連絡いただいても構いません。

FAX 03-3294-0996

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-2-3 笠間書院 営業部
電話 =03-3295-1331 メール =info@kasamashoin.co.jp

申
込
書

忍者文芸研究読本

ISBN978-4-305-70732-1 定価：本体 1,800 円（税別）

= () 冊

忍者の教科書

ISBN978-4-305-70724-6 定価：本体 600 円（税別）

= () 冊

ご住所
〒

お電話 ()

お名前

書店名

毎度ありがとうございます。ご注文をお待ちしております。

※お客様の住所・氏名などの個人情報は、お申し込みの書籍を小社から書店様にお届けするために、笠間書院・販売会社・書店で利用させていただきます。その他の目的では利用いたしません。